

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	岐阜県羽島市正木町新井4丁目945番地		
自己評価作成日	平成29年7月31日	評価結果市町村受理日	平成30年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kamiTRUE&ji_gyosyoCd=2170400465-00&PrEfCd=21&Ver:si onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と色々な会話ができて、学ぶことが多くある。野菜の作り方も指導を受けて庭に作っている。スイカ、トマト、メロンと収穫を利用者さんと楽しむことが出来る。散歩も農道のため畑仕事の方と話したり野菜・花を頂いて来ることもしばしばあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間で話し合っ「オムツの運動」に取り組み、昼間は利用者全員が布パンツで過ごしている。排泄チェック表からパターンを把握し、利用者のサインを見逃さないように声を掛けて誘導している。花見弁当やおはぎ、芋のつるなど四季折々の献立を提供することを大切にしている。散歩の時に採ってきたつくしのはかま取りや、干し柿作りなど利用者と一緒に食事を楽しんでいる。長年勤めている職員が多く、意見が言いやすい関係である。職員から四季の行事や外出先、事業内の飾り付けなど意見が出されて取り入れている。職員は「ありがとう運動」やボディータッチすることを大切に利用者安心して暮らせるように工夫している。退所した家族が花火見学に訪れたり、年賀状や暑中見舞いなど四季の便りが届いたり家族の信頼を得ている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心感の理念を守って利用者の生活ができて いるかミーティングで話し実施・実行に心 がけている	管理者は利用者が安心して笑顔で過ごすに は利用者の思いを聞き、気持ちを受入れるこ とが大切であるとミーティングなどで説明して いる。職員は「ありがとう運動」を行いながら 笑顔で接することように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	花見・お祭り・花火大会と参加 散歩中の町内の方が庭に利用者がいると 来て話してくださっている	子供会の神輿や獅子舞が事業所に立ち寄り 利用者と交流している。花火大会の時は事 業所の駐車場を開放し地域の方よりスイカの 差し入れがあり利用者、家族も一緒に楽しん でいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	地域の人と会話 ボランティアの方の手品、歌をしていただき 楽しんでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	市役所、町内会の方、包括の方、家族と参 加有り。現状を話したり意見を聞いている	会議で現状や取組状況を報告し話し合っ ている。地域の代表者より公民館の行事やい きいきサロンなどの情報を聞いて参加して いる。感染症や食中毒予防のアドバイスがあり 職員間で話し合い衛生管理など見直した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の世話をみていただいている	市の担当者に事業所の事故報告や空き情報 など連絡している。市の担当者から感染症や 食中毒など連絡があり職員で話し合った。生 活保護の方を受入れて担当者の訪問時に報 告や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サ ービス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊の方が、一名おられ家族の了解のもと で、大変な時(特に夜間)ベルト使用になっ ているが、ほとんど見守りで済んでいる	管理者は毎月ミーティングにおいて事例を検 討しながら拘束しないよう職員間で話し合っ ている。不穏になる利用者に対して家族に説 明し同意を得て拘束をしているが、同意書に は拘束の開始及び解除の予定が記入されて いない。	職員間で記録や話し合いながら拘束 の時間を短くするように努めている。 開始及び解除の予定を明確にす ること定期的な話し合い拘束をしないよ うに取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	虐待防止について、言葉の虐待もある事な どミーティングで話し合っている		

グループホーム 夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで権利擁護に関する制度の理解と活用について話している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にホームの見学をして頂き説明、もし個々の不安や疑問点を理解して頂くように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市内の利用者ばかりなので、家族の面会も多く安心されたり意見も良く聞くことができ運営に反映している	家族に月1回希望や要望などを記入できる用紙を送付したり、年1回満足度アンケートを行ったりして要望や意見を聞いている。機能訓練の要望をがあり、職員間で話し合って散歩や外出などを取り入れた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティング、勉強会を通して利用者さん側からの希望などケアマネ聞いて反映している	長年勤めている職員が多く、意見が言いやすい関係である。職員から四季の行事や外出先、事業所内の飾り付けなど意見が出されて取り入れている。職員から参加したい研修会の要望を聞いて勤務など調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一度の健康診断を受けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の開催される研修、市民病院の研修に参加して勉強会で全職員のものにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で会う他のホームの交流もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望があれば、ケアマネ、ホーム主任が病院・自宅・ショートステイに訪問して家族、本人の希望を聞いて、安心して入所できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や、不安に対して十分理解されるよう話して安心して入所していたるように、良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望、必要としている支援を家族、ケアマネ、主任で集り十分話し合って検討し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとう運動」も行い、時には女優なった対応に努めたりして、最後に良い人生だったと思って頂けるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一度の生活便りで生活を知っていただき写真も送って安心して頂く 面会時はお茶をしながらゆっくり話が出来るように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩中の近所の方が庭にいる利用者とは会話されたり、野菜おやつを届けて下さっている	散歩の途中に知り合いの家に寄ったり、馴染みの理容室に行ったりしている。職員は知り合いや友人が訪問した時は再来訪のお願いをしている。家族に了解を得て友人と外出する方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間には利用者通しの会話に職員も混ぜて話をして楽しんでいる		

グループホーム 夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族から電話、手紙などあり野菜を送っていただくこともある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜(19時)のお茶の時間が職員もゆっくりできるので、一日の会話、不安な事などを聞いてミーティングで話し合っている	散歩時や入浴時、就寝前のお茶の時間、消灯までの時間など日々のかかわりの中で思いや要望など聞いている。困難な方は、表情や態度、しぐさから思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントを行い把握するように努めている 家族の面会時に伺ったり、居宅ケアマネからも情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日二回のバイタルチェック・排泄・食事・水分摂取、医師の往診、訪看の健康チェックなど相談している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時、サービス担当者会議を行い意見を行い意見を反映している 家族には電話で面会時に伺い先生にも尋ねている	作成担当者は申し送りを確認し職員に意見を聞きながら毎月モニタリングを行っている。家族には面会時や電話にて利用者の状況を報告し思いや意見を聞いている。ミーティングで話し合い職員の意見などを反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りをみて、次の日の状況を確認し確実に伝えている ケアプランにも生かしてもらうこともある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りノートの確認、その時のニーズに対応している		

グループホーム 夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農業地なのでゆっくり散歩できクリーン作戦も利用者が自主的にされることもある。ランチにも行ったのしまれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は希望があれば、その先生に往診をお願いして不安のないように努めており、希望がなければホームの主治医をお願いしている	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。原則、家族の同行であるが、必要に応じ職員も一緒に同行している。家族が同行する場合は体調等書面で渡している。家族が困難な場合は職員が受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を月二回 24時間対応の訪看にも来ていただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の了解をとって医師、看護師より情報をしるようになっている 入院中は身の回りの世話も出来る限りしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については家族の希望もあり病院かホームで終末期を迎えるのか十分話し合っている 終末期をホームで迎える人が多くなった今、主治医、看護師の支援が受けれるようにしている	契約時に家族から終末期の希望を聞いている。定期的に家族の希望を確認しながら状態が大きく変化した時は、医師や訪問看護、家族、事業所で話し合っって意向に添えるように取り組んでいる。連携している訪問看護の協力で終末期の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、手当、探求の指導、講習を受けている 防災訓練も数回行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年4回行っている 防災グッズも用意し訓練には近所の方にも来ていただくようお願いしている	水や食料、救急セット、オムツ等を備蓄している。消防署職員や近隣の住民の協力を得て計画的に避難訓練を行っている。夜間想定訓練を行っていると言明はあったが実施記録など確認することが出来なかった。	夜間時は職員一人の対応となるため今まで以上に地域の協力が必要となる。運営推進会議や関係機関に相談するなど夜間想定した訓練に取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ前のスクリーン使用で人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応している	管理者は利用者が人生の先輩であることを忘れず、排泄、入浴時に大きな声で羞恥心を傷つけることがないように説明している。職員は言葉遣いや態度に気をつけ、利用者の目線で話をするように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	車イス使用者もあり、外出・散歩は希望者だけでも行う事もあるが庭での日光浴は全員少しでも行うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調気分も考えて、一人一人のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好まれる洋服を着て頂きます 髪も一カ月に一度職員がカットします。希望によって美容院へも行って頂く		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその日の好みの食事を作ったり庭でとれた野菜を利用者と準備したり、料理を利用者から学んだりしている おしぼりを配っていただく	花見弁当やおはぎなど四季の献立を提供している。つくしのはかま取りや干し柿作りなど利用者と一緒に作っている。職員は調理の後片付けや見守りなど座ることが少ないため落ち着いた雰囲気ではなかった。	利用者が落ち着いて楽しく食事が出来るような雰囲気作りを職員間で話し合っ て欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1200～1400Calを基にしており、水分も1500cc前後とっていただく 夜間は自分でとっていただけの方は、ペットボトルのお茶を渡している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の洗面、歯磨き イソジンでのうがいを実行している。歯医者の受診もしている		

グループホーム 夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「オムツO運動」に努めている 夜間はパット使用者が2名。ほとんどが声掛けで排泄の介助をしている	職員間で話し合っ「オムツO運動」に取り組み、昼間は利用者全員が布パンツで過ごしている。排泄チェック表からパターンを把握し、利用者のサインを見逃さないように声を掛けて誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の水分または、コーヒーの摂取 整腸剤、座薬の使用も医師の指示で行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は決まっており、全員入浴される 夏は夜シャワーをされる方もいる。入浴されない方には足浴、清拭も行っている	入浴が難しい状態の方でも希望があれば医師に相談し2人で介助している。仲の良い利用者同士で入ったり、入浴時間や湯温等希望を聞いたり楽しめるように支援している。夏場には就寝前にシャワー浴を行う方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は21時になっているが、自室でTVを見られる方もあり、音量には気をつけて頂き他の方の睡眠の妨げにならないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示で投与している 眠剤、下剤については申し送りノートに記入し全職員が変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぞうきんを作っていたいたり、野菜を育てるたのしみも有る 自室には育てた花を飾って楽しんでみえる利用者さんもおられる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩、日光浴をします 部屋ではTV体操、ボール遊び、家族との外出 ランチ・モーニングにも行っている	散歩の途中に事業所近くの知り合いの方の家や墓参りに立ち寄っている。モーニングや買い物、地域のオレンジカフェに出掛けている。職員は帰宅や墓参りなどの希望を家族に伝え、協力を得て外出している。	

グループホーム 夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のおかねは置いていません 家族と外出された時は、家族の方と買い物されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望があれば、出来るようになっている 家族に自分から電話して面会時を聞かれる方もいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	会話できる方向士のテーブルにしている 玄関に花を飾っており、四季を感じておられます トイレ前のスクリーンも役立っている	居間には四季が感じられるポスターや飾り物など飾っている。栗やすいか、かぼちゃ等いただいた季節の野菜などを食卓に飾り季節を感じれるように工夫している。居心地良く過ごせるように室温や湿度に気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり、椅子に座ったりTVの話をしたり、TVで流れる歌をくちずさんでおられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋はすべて本人の好きな様にしています ぬいぐるみを飾ったり抱っこをして休まれたりされている	入居時にタンスや鏡、枕などは使い慣れた物を持参して欲しいと家族に説明し協力が得られている。花が好きな方は散歩に出掛けて摘んできた花やいただいた花を自由に活け居心地の良い部屋を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事を続くように口に出しても手はださない 出来た時はいっぱい褒めるように心がけている		